

福祉プラザへの地下鉄駅アクセスエレベ - タ -

地下鉄駅から福祉プラザへのアクセスエレベ - タ - は、国道を挟み、市立病院側と福祉プラザ側と2基あります。改札口から福祉プラザへ行くには一度地上に上がらなくてはなりません。市立病院側のエレベ - タ - では地上へ上れます。福祉プラザ側のエレベ - タ - は途中までで、まず駅員を呼んで車いすのために階段用の昇降機を操作してもらって途中まで上がり、そこからエレベ - タ - で地上に上り、そこから福祉プラザへ通じるひさしのある専用通路を通ることになります。

これって、誰が考えても変ですよ。車いすの方のみならず、足もとが不自由な方、また高齢者が多く利用する福祉プラザへのアクセスエレベ - タ - は途中からとは……。僕も機会ある度に仲間にお問い合わせしてきました。仲間の答えは「当局へ働きかけても、『福祉プラザをあそこに作る予定がなかったの...。駅員を呼ぶか、直接上がれる市立病院側のエレベ - タ - 利用を...』という答え」とのこと。

じゃあ、車いすの方は、雨の日、雪の日は市立病院側のエレベ - タ - を利用し、傘もささず、あの広い国道を渡り、更に福祉プラザまで歩道を、ということか。

仙台市の福祉の発信基地、また各団体の活動の場でもある「福祉プラザ」というビル(12F建)の名が泣くというもの。どこが、バリアフリ - で、しかもこの当局の答え方に「何が、心のバリアフリ - ?」と愕然とする。

そこで、宮城県、仙台市の福祉マップに取り組んでいる会のHPに、単に設備、構造だけのバリアフリ - 調査・紹介のマップ作りだけでなく、真に利用者の使い易いものかどうかのチェックも会の活動に加えるようお願いするメ - ルを送信した。正直、返信は期待していなかった。予想に反し、日をおくことなく代表者から返信。会のみならず市内の障害者全体の長年の懸念であり、何度も当局とも交渉しているとか。当局の反応は、僕の聞き及んでいる回答となんら変わらないとか。まして、会としても今後も交渉をして行きたいので力を借してくれないかとのメ - ル内容。

もちろん、お役に立つならお手伝いするつもりである。

皆さんもこのエレベ - タ - 問題を事例に、真に「心のバリアフリ - 」とはどういうことかをお考えいただきたいと思います。

(2003年07月10日記)